

令和 6 年度 日本大学大学院特別講義（英文学専攻）

日 時：令和 6 年 10 月 21 日（月）4 時限目、令和 6 年 10 月 28 日（月）4 時限目

場 所：文理学部 7 号館 7204 教室

講 師：日 碁^{ひ だい} 滋之先生（元玉川大学文学部教授・現拓殖大学大学院言語教育研究科非常勤講師）

1 日目（令和 6 年 10 月 21 日（月）4 時限目）

タイトル：授業実践を通して語彙の習得をどう進めていくか

講義内容：

① 授業実践を通して学習者の受容語彙（receptive vocabulary）を発信語彙（productive vocabulary）へと転換を促す

Bingo で提示した受容語彙を、コミュニケーション活動を通して発信語彙へと転換し、語彙の定着を目指す中学校と高等学校の具体例を提示する。

② 語彙について知っておきたいことを共有する

- ・ 語彙と文法、語彙とコミュニケーションの関係から語彙の重要性について知る（Wilkins, 1985: 111）。
- ・ 中高の学習指導要領で語彙について記載されている事項について知る。
- ・ 語彙を知っているということはどういうことかについて知る（Nation, 1990: 31, Schmitt, 2000: 5）。
- ・ 語彙の定着のために必要なプロセスについて知る。（Nation, 2001: 63）

③ 授業実践から先行研究を踏まえた教材開発の必要性を提案する

コミュニケーション活動で、学習者が英語で言いたかった表現を、活動後に「振り返り」として日本語で書いてもらい回収する。この学習者からの日本語の質問を、英語母語話者教師と日本人英語教師とで英訳し、学習者が使用したいと思う頻度の高い表現を抽出し、receptive retrieval の教材として EasyConc for FlashCard.fmp12 のアプリを開発した。また productive retrieval の教材として BingoSheet for FlashCard.xlsm のアプリを開発した（日碁他、2021:19-31）。

【参考文献】

Nation, ISP. 1990. Teaching and Learning Vocabulary. Heinle & Heinle Publishers.

Nation, ISP. 2001. Learning Vocabulary in Another Language. Cambridge University Press, Cambridge.

Schmitt, N. 2000. Vocabulary in Language Teaching, Cambridge: Cambridge University Press.

Wilkins, D.A. 1985. Linguistics in Language Teaching. Edward Arnold

日基他、2021「中高大連携に基づく ICT 英語教材の開発—日英パラレル・コーパス EasyConc の構築と発信語彙の習得を促す EasyConc for FlashCard.fmp12 の開発—」『玉川大学教師教育リサーチセンター年報 第 11 号』玉川大学教師教育リサーチセンター.
(<https://cir.nii.ac.jp/crid/1050009457547054976>)

2 日目（令和 6 年 10 月 28 日（月）4 時限目）

タイトル：検定教科書支援教材としての学習者コーパスの活用

講義内容：

① 授業実践を支える理論

- ・学習者に語彙を教える際に効果があがる学習支援について知る (Nation, 2008: 97)。
- ・タイムオンタスクの原則 (time-on-task principle) (Nation, 2009: 2)。
- ・費用対効果の原則 (cost/benefit principle) (Nation, 2013: 11)。

② 先行研究をもとに開発したアプリの鳥観図

授業実践の「振り返り」の活動から英語で言いたかった表現を回収し、構築した日英パラレル・コーパス EasyConc とその EasyConc から開発したアプリの紹介。

③ 検定教科書でインプットされる英文と学習者のニーズ (Learners' needs) からアウトプットしたいと思う英文との間に隔たりがあることを認識する

- ・関係代名詞を例に比較する (日基他, 2022: 61-73)。

④ 2 日間の授業のまとめ

- ・検定教科書は学習指導要領を反映したつくりとなっているが、教師が学習者のニーズに目を向ける視点を大切にしたい。
- ・教師が学習者のニーズに目を向けると教材が変わる (日基他、2016)。
- ・教材が変わると授業も変わり、生徒の表現力も高まる。

【参考文献】

Nation, ISP. 2008. Teaching Vocabulary Strategies and Techniques. Heinle.

Nation, ISP. 2009. Teaching ESL/EFL Listening and Speaking. Routledge.

Nation, ISP. 2013. What Should Every EFL Teacher Know? . Compass Publishing.

日基他、2016.『1 日 10 分で話す力・書く力が身につく！中学生のための英語表現 BINGO』.
明治図書.

日基他、2022.「中学生の主体的で自律的な英語学習を支える EasyConc for Chromebook の開

発と活用」『玉川大学教師教育リサーチセンター年報 第 12 号』玉川大学.
(<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390294872198743424>)